Letter of the M.Y. elementary school

ひ び き　南山田小学校だより

～ ともだちいっぱい　かがやく子 ～

学校通信　NO.307
令和 3 年度 10 月号
令和 3 年 9 月 30 日

～　待ちに待った学校再開です！　～
（子どもたちの笑顔・笑顔！）

校長　佐藤　康晴

学校を吹き渡る風が、夏の灼熱の風から、冷涼な澄み切った秋の風に姿を変えてきました。神無門前の樹木も、少しずつその葉を紅く染めだしています。季節はすっかり秋模様になってきました。この前、学校に通ってくる途中で、大きなイチョウの木から、沢山の銀杏が落ちているのを見かけました。その葉は、まだまだ黄色く色づいてはいませんが、冷涼な澄み切った風の中で、直ぐに見事な黄色に染まるのだろうな、と感じさせてくれました。秋をイメージするイチョウの木ですが、調べてみると、世界最古の「生きた化石」と呼ばれているそうです。「イチョウ」は、一科一種の雌雄異株の落葉性大高木で、高さ 30 メートル、直径２メートルにも成長するそうです。地球上に現れたのは、約 3 億年前で、世界中に広まったのは約 2 億 130 万年前から 1 億 4500 万年前まで続いた恐竜が栄えていた中生代ジュラ紀で、恐竜が種子を食べ、消化されない種が大地に蒔かれ繁茂していった、と考えられています。しかし、この後 1 万年前まで続いた長い氷河期によって、冷たい厳しい気候の変化に耐えられずに、他の植物と共に全滅の危機に瀕することになりました。この時、殆どの植物は絶滅したのですが、「イチョウ」の種は、氷河期にも比較的温暖だった中国大陸で一種だけ生き延び、ひっそりと生き続けて来たようです。中国では、「宋」（960～1279）と呼ばれた時代に、イチョウの木や葉から、薬用や食用としての価値が発見され、広く栽培される様になったそうです。最近、中国で１億６０００万年前の「イチョウ」の木の化石が発見され、「遼寧銀杏木」と命名されました。日本へは、鎌倉時代頃に、大陸から海を渡ってきた僧侶等によって、薬や食用として持ち込まれ、各地に広がって行ったのではないかと言う説もあるようです。しかし、自生していた「イチョウの木」はすでに絶滅したと考えられ、今私たちが見かける「イチョウの木」は、人によって植樹され続けているもので、ダーウインは、氷河期に殆どの植物が絶滅した中で、「イチョウ」だけが現存していることから、「イチョウ」は『生きた化石だ』と言ったそうです。普段当たり前の様に眺めている木にも、凄い歴史があるのを知り、子どもたちにも話したくなりました。そんなイチョウの葉が色づく穏やかな季節の始まりの中、10 月 4 日月曜日から、待ちに待った、全校児童揃っての学校再開です！！

分散登校で、子どもたちは、半数のクラスの仲間と顔を合わせることが出来なくなりました。どのクラスの子どもたちからも、顔を合わせられない仲間を思い、「どうしているのかな？」「早く会いたいな！」などの声を聞きました。離れてみて、仲間の存在の大きさや大切さなど、気付いたことも沢山あったのではないでしょうか。

これからも学校は、社会の状況を注視し、今まで通り、子どもたちの安全と安心を守るために、消毒や換気、密にならない学習活動の見直しなど、感染症対策を徹底し教職員一同、力を合わせ努力してまいります。どうか、保護者の皆様並びに地域の皆様には、これまでと同様に、本校の教育活動へのご理解とご支援・ご協力をいただけましたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。